

## 令和3(2021)年7月19日以降に行う登山の実施条件

学校安全課

令和3年度第3回登山計画審査会において審査の対象となる登山の実施期間は令和3(2021)年7月19日から9月12日までとするが、この期間の登山について、新型コロナウイルス感染防止とともに、夏季の気温や湿度等に起因する事故を防止するための適切な対策を講じて臨む必要があることから、以下のとおり実施に際しての条件を示す。

なお、登山を実施しようとする県立学校は、「登山計画作成のためのガイドライン(改訂版)」の遵守はもとより、「部活動実施に係る対応マニュアル(2020.7.28Ver.3)」及び本条件のもと登山計画を作成の上、県教育委員会の承認を得て実施するものとする。

### 1 山行地の設定について

(基本的な考え方)

山行地の設定に当たっては、テントや山小屋等の利用による密の回避をはじめ、新型コロナウイルス感染症の感染防止と、夏季により気温や湿度が上昇することや登山が長時間の運動であることにより熱中症等のリスクが高くなること等に十分に留意して設定する必要がある。

(設定に当たっての条件)

- ・日帰りが可能な山域とする。
- ・原則として、標高が比較的高く(概ね700m以上)、かつ登山口も高所にある山とする。(登山口までは、バス、ロープウェイ等により移動が可能な山とする。)
- ・標高の高い山での山行が困難であり標高の低い山で山行を行う場合は、気温上昇の時間帯を避け、概ね正午までに下山できる山とする。

### 2 参加者、引率者について

(基本的な考え方)

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため参加者の密を避ける観点から、少人数による行動を基本とする。引率者の適切な人数配置の確保と安全のための行動管理の徹底の観点から、全体の参加人数を制限する。

(登山実施のための条件)

- ・登山活動の参加者は、10名以内(引率者を含む)の1パーティとすること。

### 3 事前トレーニングの計画・内容についての条件

- ・事前の校内での活動においては、必要な体力をつけた上で山行に臨めるよう、計画的にトレーニングを行うこと。
- ・十分な登山経験を有していない生徒が多いことから、登山についての技術や知識を十分に習得させるとともに、安全対策や山域研究等の学習を徹底すること。
- ・学校が生徒の体力等の状況を観察して山行が適切でないと判断する場合は、当該生徒を山行に参加させないこと。

### 4 中止についての基準

- ・登山計画審査会での審査を経て県教委が承認した後でも、新型コロナウイルス感染症の感染状況により山行が適切でないと県教委が判断する場合は、山行を中止すること。
- ・山行当日の出発前に、生徒及び引率教員の発熱や倦怠感等、体調の異常の有無の確認を行い、異常が確認された場合は、当該生徒及び引率教員を山行に参加させないこと。
- ・山行の前日及び当日の出発前等に、環境省熱中症予防情報サイト等の情報を活用し、最寄りの観測地点の暑さ指数(WBGT)が登山活動時に31以上になることが予測される場合は、山行を中止すること。

### 5 その他

- ・行動中は周囲と2m以上の間隔を空けるようにする。運動強度が強い場合は吐く息が激しくなるため、より一層距離を空ける必要がある。ただし、登山道のカーブなどでお互いに見えなくなるような場所では、必ず後続者を目視してから先に進む。
- ・山行中のマスクの着用は原則として必要ないが、感染リスクを避けるため、会話や休憩時、混雑時や人とのすれ違い等で距離を保てない場合は、着用することとする。
- ・緊急時以外、避難小屋など密となる可能性がある場所の利用は、できるだけ避ける。
- ・消毒液等を携行し、飲食時等の消毒を徹底する。
- ・飲み物の回し飲みや食べ物の授受・共有はしない。
- ・貸切バス等での移動にあたっては、隣席を空けて座るなどし、マスクの着用、会話の自粛、車内の換気等の感染防止対策を徹底する。
- ・山行中は定期的に暑さ指数(WBGT)の測定を行い、25以上になったときには参加者の体調に注意を払うことはもとより、十分な休憩や水分補給等を行い熱中症の防止を図ること。また、31以上になったときには計画を中止・変更するなどして安全に下山するための行動をとること。